

木知原の今昔!

50号:24・11・8

“もちつり”ルーツ



まずはご一読ください。



木知原の**木遣り節**は**明治時代**の中頃に木知原の三名の大工(弥一・政五郎・治作)が大野町相場の大工棟梁(松浦氏)から仕事を通して伝授され唄うようになったのが始まりである。

- 🔪 木知原では**明治四十二年**に中屋敷の吾作家(清美氏宅)の**地づき唄**として私他数名が引き綱に合わせて唄ったのが初のお披露目であった。
- 🔪 それが近隣の村々にまで評判になり依頼を受けて出かけたことも何度かあった。中島の**正尊寺の地づき**や山口の**祐國寺の地づきもちつり**にも依頼を受けている。
- 🔪 木知原の**もちつり唄**はこの間遠方へ仕事に出かけていた村人が持ち寄った話を参考にして**木知原独自**の**もちつりみこし**と**木遣り節(もちつり唄)**を完成させた。
- 🔪 もちつりの最初の披露となったのが**谷汲山華厳寺の開帳(七十年前)**であった。谷汲村からの要請もあり連日打ち合わせと練習を積み重ねての大奉納となった。
- 🔪 最近の唄い方は当初とは随分異なってきたはいるが...



♥ 西屋敷にお住まいだった杉山勝一氏が語られた録音記録より抜粋。

♪ “もちつり唄”もとは“地づき唄”だった♪

木遣り節

とは13世紀の初め榮西上人が重い荷物を引き上げる時に掛けさせた「掛け声」が始まりだそうである。

🔪 木知原では「**木遣り節=もちつり唄**」とのイメージが強いが杉山氏の話によると当初は「**地づき唄**」として唄われていた。

- ♥ 村人の情報や知恵を出し合いながら**木知原作詞**の木遣り節(もちつり唄)を創り上げてきたことに誇りを感じる。
- ♥ 記憶には「**谷汲山開帳(昭和30年)**、**樽見線木知原駅開業(昭和33年)**・**田社神社本殿改築(昭和52年)**・**神社脇舎改築(平成21年)**」の4回がある。
- 🔪 中でも昭和52年のもちつりは**子供たちが公民館**で何度も練習して本番を見事に演じたことが強く印象に残っている。

《**地づきの引綱**》
昔は“あほ綱”と呼んでいた引き綱(引手)の気持ちを合わせるためにいろいろな掛け声が掛けられていた。
「〇〇さんためならエンヤコリヤ もう一つおまけにエンヤコリヤ」等はなつかしい掛け声であった



♪ 叡山やま

♪ もちつり唄

- ◎ えい山やまでも よんやせいの
♪エイエンヨーオ
ヤレコリヤサーノーエー
- 棹さしやトング吊りぢや「♪..」
- 山なら木なりぢぢや「♪..」
- 川なら 瀬せなりぢや「♪..」
- 田んぼなら 畦なりぢや「♪..」
- ひんよがようきく よういさえ
「♪ ヨーイサーア
ヤレコリヤ ヒーインヨーイ

🔪 「木遣り節」を基に「**叡山やま**・**綱さばき**・**松前きやり**・**半掛けすか**・**京きやり**」など、**もちつりの動き**に合わせて唄ういろいろな曲目が作られている。

- ♥ 「**叡山やま**」は餅まき棚へ**餅俵**を吊り上げる時の唄(掛け声)で、歌詞は地づき唄をアレンジして木知原バージョンが完成したそうである。
- ♥ 祝い事でお神酒も入り歌詞もつい**〇〇ネタ**入りも多くなったようであるが当時は常であったのでしょうか。
- 🔪 近郷には無い木知原の伝統文化であるが残念ながら「**継承**」は困難な世情となり寂しい限りである。

区切良い50号ですが、来年は昭和100年にあたるのでこのペースで新年号迄と思っています。